

西部水産振興だより

第56号
2026.3

- 黒潮大蛇行の終息と神奈川への影響について 1~2
- 「西浄化センター下水道対策連絡調整協議会」開催 2
- 令和7年度 下半期の主な事業 3
- 令和7年度 東部地域水難救助訓練の実施 3
- 小学生放流体験教室を実施しました。 4
- 県立海洋科学高校の藻場再生への取組み 4

一般財団法人 横須賀西部水産振興事業団
〒240-0101 横須賀市長坂2-2-2 ☎080-8810-5132
*令和6年4月から電話番号が変わりました
URL <https://www.yokosuka-seibusuisan.org>
「西部水産振興だより」のバックナンバーや
「小田和湾の藻場環境」のパンフレットが
ダウンロードできます。ぜひご覧ください！

黒潮大蛇行の終息と神奈川への影響について 神奈川県水産技術センター

新聞等報道で大きく取り上げられた黒潮大蛇行の終息について、神奈川県水産技術センターにお聞きしました。

神奈川は東京湾と相模湾という2つの異なる特徴を持つ湾に面しており、私たちは日頃から様々な恵みを受けています。東京湾は大半を陸に囲まれた閉鎖型の湾で、陸からの影響を受けやすいことが特徴です。対する相模湾は外洋に入口が大きく開いた開放型の湾で、沖からの影響を受けやすいことが特徴です。沖からの影響として、最も重要なのが今回のメインテーマとなる黒潮です。

気象庁によると、黒潮とは日本の南岸に沿って流れ、房総半島沖を東に流れる暖流のことです。流速は速いところで毎秒2m（4ノット）以上に達し、流れの幅は約100kmにもなります。これほどの大きな流れであるために、黒潮の動向は船舶の航行や漁場の位置、沿岸の潮位を変化させる要因の1つとされています。相模湾では、黒潮の分枝流（黒潮の本流から派生した流れ）によって湾内に反時計回りの流れが起こったり、水温が上昇したりすることがあります（図1）。

黒潮はその流れ方によっていくつかの型に分類されます（図2）。

今回のテーマでもある、黒潮の大蛇行とはA型にあたるもので、黒潮が潮岬で離岸し、かつ、東海沖で北緯32度よりも南に位置している状態のことを言います。

ニュース等でも大々的に報道されましたが、2017年8月から続いていたこの黒潮の大蛇行が2025年4月に終息したと気象庁と海上保安庁により発表されました（図3）。大蛇行の継続期間は7年9か月で、1965年以降で過去最長の記録となりました。なお、気象庁をはじめとする各研究機関は今後の黒潮の動向について、終息後数か月以内に再びA型（大蛇行）になる可能性は低いと予測しています（表1）。

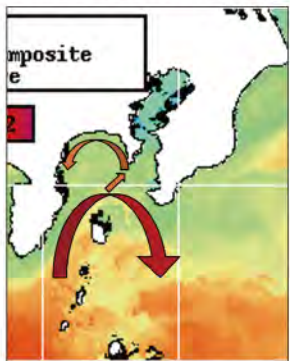


図1 相模湾の流れ

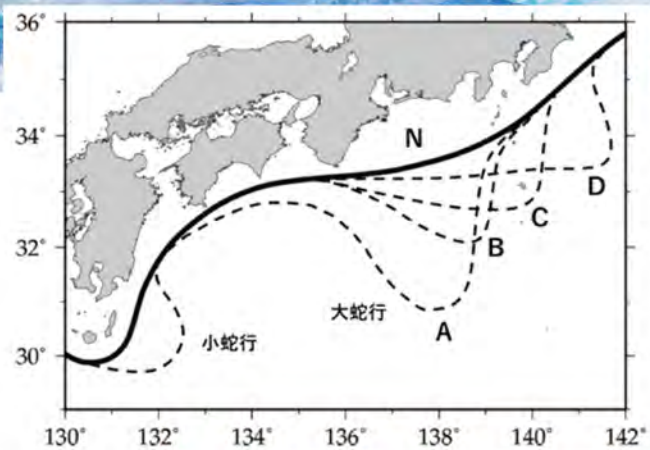


図2 黒潮流型の分類（水産・研究教育機構より）

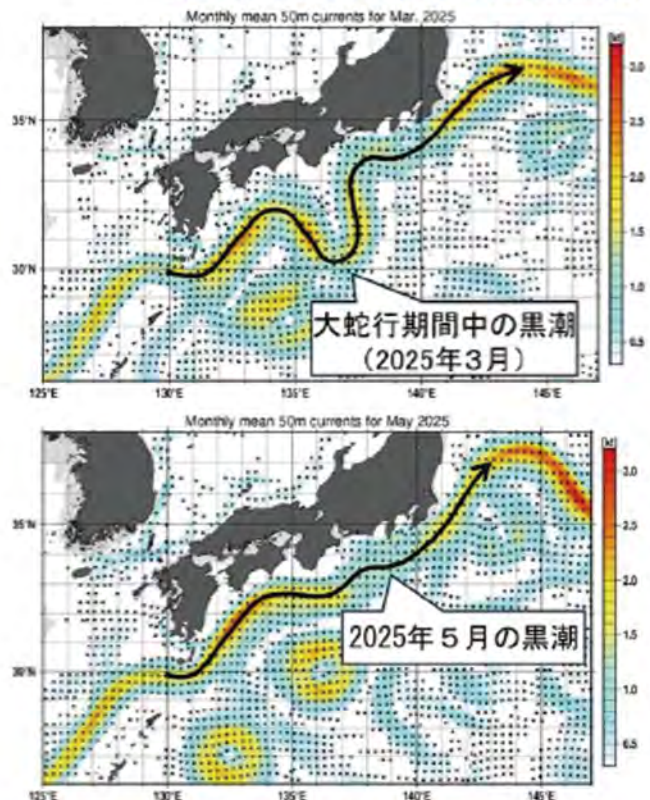


図3 黒潮大蛇行期間中（上）と黒潮大蛇行終息後（下）の深さ50mの月平均海流分布図（気象庁の記者発表より）

2026.3

西部水産振興だより

No.56

機関名	予測結果
1. 気象庁	3月：C型
2. 海洋研究開発機構	2月：C～D型 4月：N型
3. 水産研究・教育機構	2月：C型 4月：N型

表1 各研究機関による黒潮の動向予測

冒頭で述べたように、神奈川の海、特に相模湾は黒潮の影響を受けやすいため、黒潮大蛇行の発生期間中に海洋環境の変化が生じていました。水産技術センターが実施した定線観測の結果によると、2017年の黒潮大蛇行の発生以降、特に相模湾や相模灘の50mより浅い水深と東京湾口で冬季に水温の上昇が確認されました。しかし、水深や場所によっては特段、水温の上昇が確認されないところもありました。

2025年4月に黒潮大蛇行が終息し、今後しばらくA型（大蛇行）となる可能性が低いことから、神奈川の海洋環境がこれからどのように変化していくのかを沿岸水温から考えてみました。

9～12月の三崎の水温について、黒潮の大蛇行が発生する前の5年間の平均（灰色）、2024年（青色）、2025年（オレンジ色）の水温を色別に示しています（図4）。2025年の三崎の水温は、9月は平均及び2024年より低く、10月は平均より高く2024年並み、11月は平均及び2024年より低く、11月末から12月は平均より高く2024年並みとなりました。黒潮大蛇行の終息により冬季の水温が大蛇行前の水準に近づくことが期待されましたが、必ずしもその通りとはなりませんでした。



図4 三崎の水温

冬季の水温が期待したほど低下しなかった原因の1つが黒潮の影響です。黒潮本流の蛇行の屈曲部が相模湾沖に近づく、黒潮由来の分枝流が相模湾や東京湾へ入りやすくなり、急激な水温の上昇を引き起こします（「暖水波及」と呼ばれる現象です）（図5）。分枝流によって水温が上昇すると、なかなか水温が下がらない状態が継続し、海藻養殖等の本県の漁業へも影響が及びます。

今後の黒潮の動向によっては、先述したような水温の急激な上昇が一時的に起こる可能性があります。そこで、水産技術センターでは、日頃から黒潮や水温の動向を監視し、関連する海洋情報をホームページで随時公開しています（図6、7）。これらの情報をぜひ多くの方にご活用いただければ幸いです。（企画指導課 草野朱音）



図7 水産技術センターのホームページのリンク

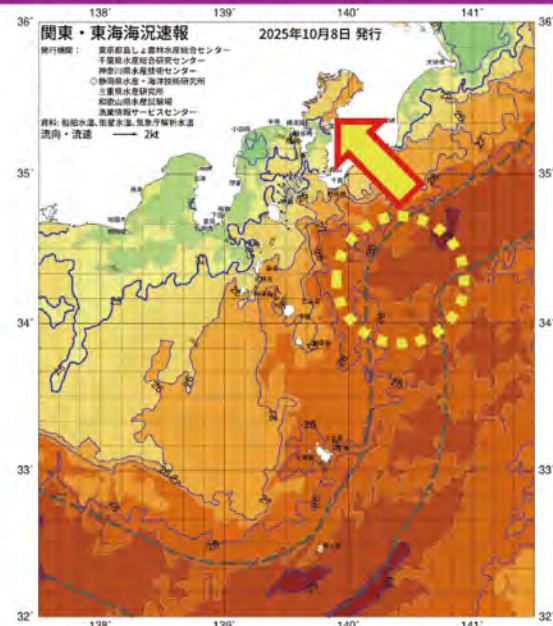


図5 大島東水道から暖水が流入する様子（2025年10月8日）

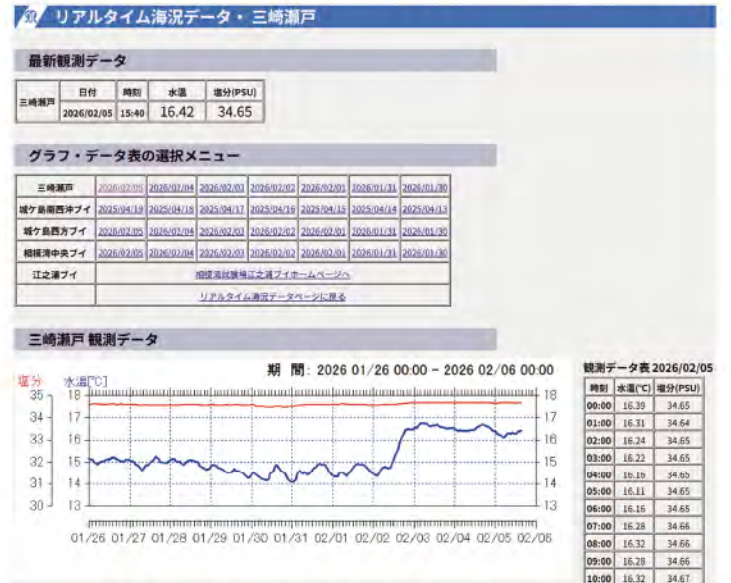


図6 水産技術センターホームページで公開している情報の例（三崎の水温）

「西浄化センター 下水道対策連絡調整協議会」開催

2月9日（月）西浄化センター会議室にて、第66回西浄化センター下水道対策連絡調整協議会（事務局：横須賀市上下水道局）が開催されました。

平成6年に西浄化センターから放出される処理水（淡水）の漁業への影響等について話し合う協議会が設立され、以降年2回開催されています。

構成員は、長井町漁協役員と湘南漁協佐島支所役員、県市の関係職員、学術経験者です。

継続的に調査している「水温連続観測」や「海域水質調査（酸素量・窒素・リン等）」「アサリ生息調査」などの報告がありました。



令和
7年度

下半期の主な事業

当事業団は地域活動の支援、水産振興を事業の柱として、種苗放流や研修会開催などの事業を行っています。本年度後半の主な事業活動を紹介します。

稚貝（サザエ・トコブシ・アワビ）の種苗放流を実施しました。

10月7日(火) 佐島漁港沖合 サザエ

当事業団20,000個と漁協購入分を合わせて、合計40,000個（平均殻高17mm）



10月7日(火) 佐島漁港沖合 トコブシ

当事業団5,000個と漁協購入分を合わせて、合計10,000個（平均殻長18mm）



10月21日(火) 長井漁港沖合 アワビ

当事業団2,000個と漁協購入分を合わせて、合計3,000個（平均殻長30mm）
赤アワビ2袋、黒アワビ1袋



8年1月27日(火) 佐島漁港沖合

当事業団1,000個（平均殻長30mm）



令和7年度 東部地域水難救助訓練の実施

る民間ボランティア（主に漁業関係者）で構成されています。
東部地区（横浜柴から横須賀市、三浦市）10救難所から計約180名の参加があり、横須賀海上保安部及び横須賀市消防局の指導の下、海上転落者救助訓練や救命索（ロープ）発射銃操作訓練等を実施しました。

令和8年1月7日(水) 横須賀市新港第4岸壁（ノジマモール横須賀隣）にて（特非）神奈川県水難救済会の「令和7年度東部地区水難救助訓練」が実施されました。

水難救済会は、沿岸海域で遭難した人や船の救助に駆け付け



小学生放流体験教室を実施しました。

1 長井小学校 3年生47名

10月7日(火) 長井井尻漁港先の長井護岸整備区域（遊歩道）にてサザエの稚貝（殻高17mm、生後1年）1,000個を放流しました。

当日は、神奈川県栽培漁業協会（城ヶ島）職員から、サザエの成長や栽培漁業と養殖漁業の違いについて説明があり、その後、各児童はバケツに入ったサザエ稚貝（各25個）を転落防止柵内から数個ずつ掴んで海に投げ入れました。

最後に地元長井町漁協組合長から、サザエの取り方と近年の藻場の荒廃による漁業への影響等について話がありました。



2 大楠小学校 5年生72名・3年生67名

10月30日(木) 芦名漁港内作業場にてサザエの稚貝（殻高17mm、生後1年）2,500個を放流しました。

当日は、地元湘南漁協（佐島）職員から、佐島の定置網で獲れる魚や黒潮大蛇行の漁業への影響、藻場の荒廃状況について説明があり、その後、各児童はバケツに入ったサザエ稚貝（各25個）を岸壁から数個ずつ掴んで海に投げ入れました。

最後に神奈川県栽培漁業協会職員から、サザエの成長と栽培漁業について話がありました。



県立海洋科学高校の藻場再生への取り組み

令和7年11月1～2日、市立横須賀総合高校SEAホールにて「海辺の自然再生 高校生サミット2025inよこすか」が開催されました。

当日は、北海道から鹿児島まで計21校の高校生が集まり、藻場造成方法の研究からアマモの生息状況調査、海洋教育教材の作製、お魚料理教室などいろいろな取り組みが紹介されました。本校は、「小田和湾のアマモ場再生を目指して～アイゴ稚魚の食害対策～」を発表しました。

今回、アイゴ稚魚を実際に飼育し、食欲など水温での影響を観察することができました。

また、アイゴ稚魚用の対策ネットの目合や材質等を比較検討した結果を発表することができました。



アイゴの稚魚

アイゴの食害観察

